

主人公は犬を飼うために母と十の約束をか  
わす。最初は、犬にやさしく接する事や責任  
をもつて飼うための約束で、心構えやルール  
は大切だという内容だと思った。ところが、  
読み進めると十の約束は、犬との約束でもあ  
り、母の願いでもあるのではないかと思い始  
めた。

一の約束の「たくさん私と話をしてくださ  
い」は母が犬になつたつもりで書いたと思つ。  
その中には、もつと母と話をしてくほしい、相

談してほしいという願いも含まれていたんだ  
と思つた。七の約束の「私を信じてください。  
私はいつもあなたの味方です」は母が娘を信  
じるからね、おつと見守つてくれるよ、すつと  
応援しているからね」と伝えたかつたと思つ  
た。八の約束の「あなたと一緒にいる時間は、  
十年くらいしかありません」は、病気の母の  
寿命もあと少しだから、残りの少ない時間を  
大切に過ごしたいと思つたのではないか。  
なかなか娘には言えない思いをこの十の約

東のーっーっにこめているんだと思っただ。母は娘に対して、なぜ病気の事を自分の口から言わなかったのかは、娘を悲しませたくはなかつたからだと思っただ。犬が死んでしまう直前、十の約束の反省を犬に話す場面がある。犬だけでなく、母にも約束を、守れたかの反省を伝えただと思っただ。十の約束を覚えてくれた母に約束を守っただと、ちんと犬を飼うことが出来たよと知らせたいと思っただと思っただ。

最後まで読むと、この本は、今までに読んだ本と何かちがった。なぜかと考えてみると、十の約束の中に母の願いがこめられている。この本の中には一言も書いていない。なのに、絶対にそうだと思っただのは不思議だ。